

公表

## 事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターびーち		
○保護者評価実施期間	令和7年11月10日		～ 令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年11月10日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
0 多職種連携		なるべく保育士・言語聴覚士・作業療法士・児童指導員と多職種で集団療育に入り、多面的な支援が出来るように意識している。また、発達段階やライフスタイルにあわせて、個別療育なども上手にとりいれながら、ソーシャルスキルの向上を後押ししている。 言語療法では、病院のリハと同じように構音や吃音への対応も行っている。 作業療法では、なわとびなどの複雑な動きの練習なども個別で行っている。	毎月の勉強会や職員会議の中で、それぞれの職種の専門性をチームとして共有していくことで、ひとり一人の職員の理解や視野を広げ、お子さんやお子さんを取り巻く環境を多面的にとらえられるようにしていく。 療育的視点を活かし、お子さんの発達課題に合わせたグループ活動を増やしていく。 看護師の配置が安定するように体制を整えていく。
2 保護者支援		ペアレントプログラムやペアレントトレーニング、保護者会、ピアカフェなど、保護者の方が集える環境を作っている。また、モニタリング時期だけではなく、必要な時にはいつでも個別に対面やライン・電話などでタイムリーに相談できる機会を設けている。 保護者向け勉強会などを4月に年間計画として配布し、仕事などの都合をつけやすいように、勉強会に参加しやすいようにしている。 きょうだい支援として、きょうだい児に勉強会を開催した。	びーちの保護者だけではなく、さくら市・近隣地域の保護者や支援者も勉強会やびあカフェに参加できるように周知し始めている。地域活動支援センターなどとも連携を深め、地域の中でより幅広く支援を行えるように体制を作っていく。
3 関係機関との連携		栃木県から事業の委託を受けていることもあり、国や県の動向を理解し、地域の中で啓発活動を意識して行っていると思う。身近なところでは、学校や教育委員会、他事業所とも有効な関係を築き、タイムリーに情報効果難が出来ている。	職員がたくさんいるので、どの職員も自分で判断してやりとりができるようにしていく。 まずは自分の事業所や法人のことをよく理解できていないと、関係機関との適切なやりとり結びつかないので、職員一人ひとりの向上を目指し、一期一会のやりとりも活かせるように意識していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 定員オーバー		定員10名のところ、R8.2時点で54名の登録児童がいるので、利用の申し込みがどうしてもあふれてしまう。職員他事業所との併用や利用日数の削減を保護者に協力依頼することも多く、そこが課題となっている。	相談支援員とも連携を深め、適切な利用調整ができるように体制を組みなおしている。また、モラルに添った利用調整が地域の中で浸透するように、啓発活動にも力を入れていきたい。 放課後等デイサービスの利用で補えないご家庭には、子育て短期支援事業(トワイライト)の併用も含め、お預かりできる方法を模索している。
2 職員の質の確保・向上		毎月職員会議・施設内勉強会を設け、知識や情報の更新や吸収を意識して行っている。また、外部の研修にも参加できる機会を確保し、参加した職員から伝達研修を行ってもらうことで、知識や情報の共有もできるように意識している。 直接支援の知識だけではなく、保護者対応のスキルなども含め、質の向上を図っていく。	1年1年スキルを積み重ねられるように、職員配置や仕事内容の組み方を工夫していく。また、数年後のキャリアプランを各職員が描き、そこに向かって自ら学んでいけるように環境と振り返り体制を作っていく。
3 地域のなかでの交流		福祉まつり参加や地域の行事めぐり、博物館への見学などのレクリエーションを意識して盛り込むことで、なるべく地域の中で人と関わる機会や自分たちを知ってもらう機会を増やしているが、発達特性もあり、負担に感じている子もいるかもしれない。	卒業後の居場所や生活を上げられるように、今後もいろんなレクは取り入れていきたい。場面によっては、相手側の許可をとってから行った方が良いと思うので、地域の中での理解や受容にも働きかけ、地域の中でインクルージョンも推進していけたらと思う。